

系統的なキャリア教育システムの PROG テストによる検証

Verification of Systematic Career Education System using PROG Test

○羽渕 仁恵¹、稲葉 成基¹、所 哲郎¹、田島 孝治¹ (1. 岐阜高専)

○Hitoe Habuchi¹, Seki Inaba¹, Tetsuro Tokoro¹, and Kouji Tajima¹

(1.Natl. Inst. Technol., Gifu Coll.)

E-mail: habuchi@gifu-nct.ac.jp

【はじめに】岐阜工業高等専門学校では学生の自主性を引き出すためいくつかの取り組みを実施している。全学的に科学技術リテラシー教育実習を行い学生が自主的に活動できる機会を提供し、地域貢献や岐阜高専のブランド化に寄与している。¹⁾ また、各種資格、TOEIC 等をポイント化する制度を導入して学生の自主的な活動を活性化させた。²⁾ 卒業後、新産業や国際社会に耐えるよう学生を育てるためには、リテラシー能力とコンピテンシー能力を鍛える必要がある。コンピテンシーは主体性、積極性といった行動力に関わるものであり、本校では Grit (やり抜く力) と呼んで、これを育てるためのキャリア教育を実施している。1 年生から 5 年生 (専攻科の場合は 2 年生) まで系統的にキャリア教育ができるようにプログラムを作り、さらに定量的に教育効果を検証できるようシステムを構築した。³⁾ 本発表はコンピテンシー能力を測定するため PROG テストを導入し、その結果をキャリア教育システムの検証に用いる。

【方法】PROGとは河合塾と㈱リアセックが共同で開発した学生のリテラシー能力とコンピテンシー能力を数値として評価するものである。このPROGテストを本校の全学生を対象として実施する。注意点として、本来数値化しにくいコンピテンシー能力を、PROGでは質問の回答を統計的手段により可視化したものである。したがって得られた数値は学生の優劣をつけるような絶対的なものではない。

【結果】平成 29 年度に第 4 学年の学生 (大学 1 年生に相当) に実施した結果、総合したリテラシー能力は 4 年制大学の理系学生の 1 年生の平均より高く、国公立 4 年制大学の理系学生の 1 年生の平均とほぼ同じであった。総合したコンピテンシー能力は大学生との差はなかった。コンピテンシーは大・中分類として対人基礎力 (親和力、協働力、統率力)、対自己基礎力 (感情抑制力、自信創出力、行動持続力)、対課題基礎力 (課題発見力、計画発見力、実践力) に分けられている。本校学生は特に統率力と課題発見力が大学生より高い数値だった。平成 30 年度に実施した PROG の結果を利用して学年進行に伴う変化を調べ、キャリア教育システムの評価、検証をする。本教育研究の一部は JSPS 科研費 JP15K00945 の助成を受けた。

【参考文献】

- 1) 羽渕他:第 27 回物理教育に関するシンポジウム (北海道科学大学、2016 年 10 月 29-30) .
- 2) 稲葉他:工学教育, Vol.61, No.1, pp. 123-127, 2013.
- 3) 羽渕他:第 64 回応用物理学会春季学術講演会 (2017 年 3 月 14-17) , 16a-P1-2.